

小さな支えあい

柏崎市立東中学校

二年 鎌田心雪

あなたの身の周りには病氣の人はいますか。私はいません。これはとても幸せなことです。しかし、祖父・祖母の近所には一昨年脳梗塞で倒れた方がいます。たとえ身内に病氣の人がいなくても一歩外に出たらすぐ近くで病氣を持っている人、これから持つ人と出会う可能性があるので。それを知ったあなたはどんな行動をとりますか。

脳梗塞の主な症状は、片方の手足のしびれ、手足の力が入らない、ろれつがまわらない、言葉がすぐでてこないなどです。倒れた方もこれらの症状がでたそうです。しばらく入院生活を送ったあと、リハビリが始まりました。ものすごくがんばって取り組んだそうです。その結果、退院することができました。しかし、退院しても手足がまだ不自由でした。だからお姉さんに家に来てもらってご飯を作ってもらったり近所の人に買い物に付き合ってもらったりしていました。退院してしばらく経ったころ、自力でご飯を作れるようになったそうです。ご飯だけではなく他の家事も少しずつできるようになっていったと祖母が言っていました。そしてつい一ヶ月ぐらい前とうとう自分で運転できるようになったそうです。

なぜその方がそこまで立ち直れたのでしょうか。もちろんその方の努力もあったと思いますが、私は近所の人の助けと協力があつたからだと思います。近所の人が買い物にわざわざ付き合ったり、ゴ

ミ出しの日にごみ袋のひもを結んでもらったりと近所の人の小さな支えが積み重なりその方が手足を使えるようになったことに結びつくと思います。

たとえ近所ではなくても誰かが小さな支えをただけで支えてもらった人は自信がきます。そしてなによりも今まで以上の努力ができます。自分がほんの少し崩れそうな積木を支えてあげればやがて目標だった高い塔になります。自分ではなんともない支えがその人にとってはひとつひとつがものすごく大きく、うれしいのです。そしてその大きい支えがたくさん集まれば実力以上の力を発揮できるかもしれません。その努力の結果は今後の将来に関わることもあります。もしそうであればなんともない支えをしてくれた人に大きな感謝をするはずです。本人はなんともないと思っていても支えられた張本人は生きがいを感じたり、勇気がもらえたりするんだと思います。

このように周りの人の努力がその人にとって大きく感じ、自信がつくのです。きっとその方も近所の人にとっても感謝していると思います。そういう支えられたり、助けられたりで他の人への支え、助けが成り立ってくるんだと思います。外に一歩出てみて病氣の人がいたら普通の気遣いをし、何か助けられることがあったら助けてみて下さい。それは普通でいいと思います。病氣の人だから、と言って支えたりすることはある意味差別と感ずるとある人から聞きました。もちろん病気で不自由にもなりかねません。そこは、どうすればいいかよく考えて行動すればきっと思ってもみなかった勇氣を与えられたりして相手にとってもプラスで自分にとってもプラスになれるのではないでしょうか。なので病氣の人がいることを知ったら無駄な気遣いはせず気づいたことをすればいいと思っています。そ

れが優しさであり生きがいになると思います。そのような意識をみんなが持てば少しずつでも小さな平和の花が増えていくと思います。私はそれを意識し自分の手でも花を咲かせられるように、また世界で花が増えるように願いながら生きていきます。

